

2005年4月8日

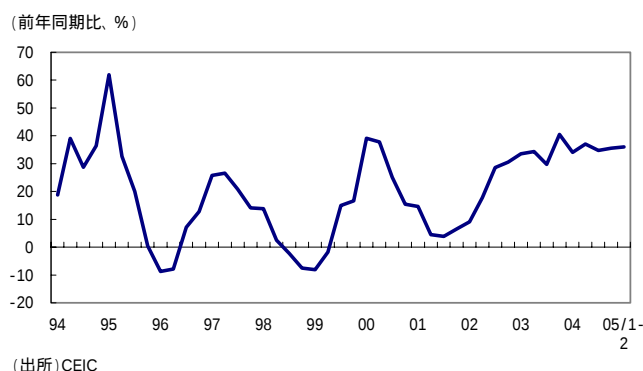
堅調な拡大が続く中国の輸出

調査部 野田麻里子(ndmariko@ufji.co.jp)

1. 2005年1～2月期の輸出も前年同期比36.0%増と堅調持続

- 中国で、輸出の堅調な拡大が続いている。2002年7～9月期以降、四半期ベースでみた前年同期比の伸び率は30%前後で推移している（図表1）。

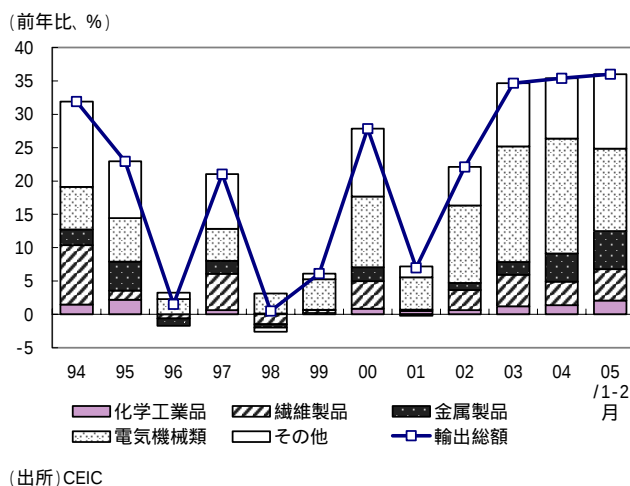
図表1. 中国の輸出動向（ドルベース）



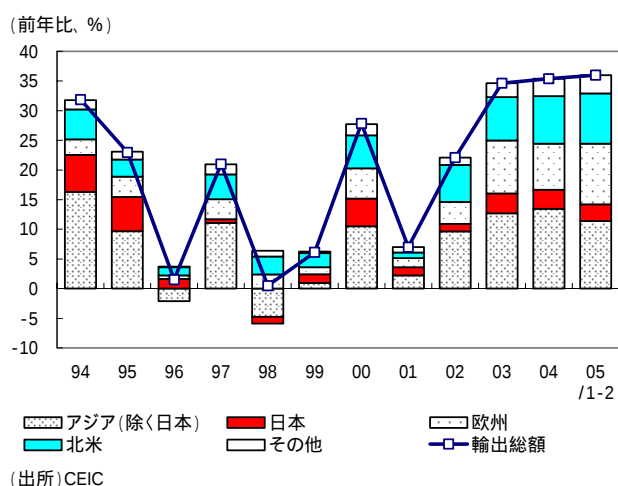
2. 2005年1～2月は品目別では金属、繊維、地域別では欧州向けが拡大

- 品目別には、電気機械類の寄与度が最も大きい。2005年1～2月期については、輸出の前年同期比増加率36.0%に対して鉄鋼など金属製品と繊維製品の寄与度がそれぞれ5.7%と4.7%と高くなっているという特徴が見られる（図表2）。また、地域別では、アジア、欧州、北米の3地域で大宗を占めるが、2005年1～2月期については欧州向けの寄与度が相対的に高まっている（図表3）。

図表2. 中国の品目別輸出動向



図表3. 中国の地域別輸出動向



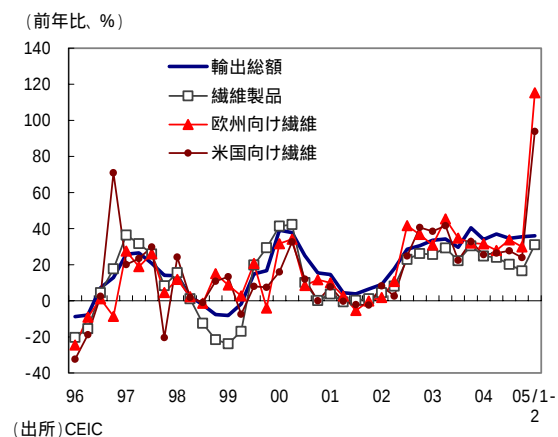
3. 足元の輸出動向には政府の引き締め政策と繊維輸入割当規制撤廃の影響も

- ・ 2004 年前半、中国では、米国をはじめとする海外景気の拡大と中国経済の先行きに対する強気の見方などを背景に投資が大幅に拡大（2004 年 1～3 月期の固定資産投資は前年比 47.8% 増）。一部で過熱状態となったため、銀行貸出の抑制、投資認可の凍結などの引き締め政策（マクロコントロール）が実施された。その結果、鉄鋼など一部の業種で在庫が積み上がり（図表 4）これを背景に輸出ドライブがかかった可能性が考えられる。
- ・ また、繊維製品については 2005 年 1 月に輸入国による割当規制が撤廃されたことから、生産余力のある中国の繊維輸出が欧米を中心に大幅に増加している（図表 5）。

図表 4. 中国の鉱物類の在庫額の伸び率



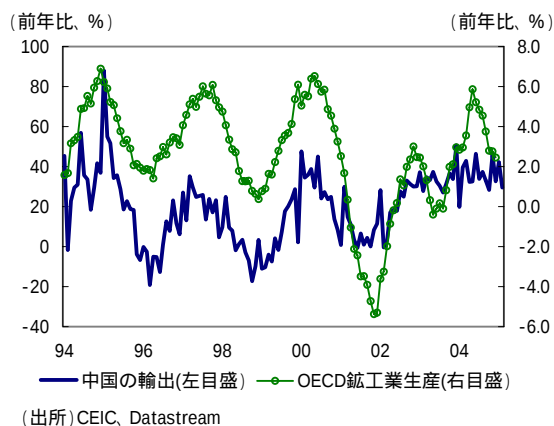
図表 5. 欧米向け繊維輸出の動向



4. 今後も輸出の堅調は続く見通し

- ・ 上記のような一時的な要因の影響もあり、輸出は当面、堅調に推移すると考えられる。なお、こうした一時的な要因が剥落した後は、所得要因（海外景気、図表 6）と価格要因（為替相場、図表 7）の影響を受けることになるが、2005 年後半以降、米国をはじめとする海外景気の持ち直しが見込まれること、何らかの人民元為替制度柔軟化策が実施される可能性があるが、その結果人民元の実効相場（貿易シェアで加重平均した為替相場）が急騰するとは考え難いこと、から 2005 年を通じて輸出は堅調に推移すると見られる。

図表 6. 中国の輸出と海外景気要因



図表 7. 中国の輸出と人民元の実効相場の推移

